

新図書館システム「WINE」によるサービス開始

鈴木 努（早慶図書館業務共同化プロジェクト担当調査役）



図：新 WINE システムの TOP ページ

これまで本誌にて二度取り上げた新図書館システムへの移行プロジェクトが、2019年9月2日（月）によりやく完了し、新図書館システムによるサービスがついに開始された¹⁾。これにより早慶の資料合わせて1,070万冊を同時に検索できるようになるなどサービス改善が実現できた。

一方でまだ手探りの部分や機能が安定しない面もあり、すべてのサービスが十分に提供できていない面もあるが、本稿では新システムになって何が変わったのかを中心に伝えたい。

1. 分散していた検索システムの統合

これまで本学では学術情報の検索において、以下の4つのシステムが独立しており、利用者はそれぞれ検索する必要があった。

a. 「WINE」

図書館が所蔵する本など紙媒体資料の検索



b. 「電子ジャーナル・電子ブックリスト」

本学で利用できる電子ジャーナルや電子ブックなどの電子資料の検索



c. 「学術情報検索」

主に本学が契約しているデータベースのデータベース単位の検索



d. 「WINE Plus」

横断検索システム。主に「WINE」と「電子ジャーナル・電子ブックリスト」の情報がまとめて検索できる。但しWINEからのデータ更新はリアルタイムでは行えず、最新情報を提供することが出来なかった。



今回の新システムではこれらすべてのシステムが統合されたイメージとなり、様々な資料をまとめて検索できるようになった。さらに新規で登録された情報がほぼリアルタイムで検索可能になり利便性が大きく増した。

2. インターフェースの刷新（画面デザイン・機能の変更）

これはまさに一目瞭然で、画面デザインや機能が大きく刷新された。旧WINEシステムでは、まず検索する項目（タイトル、著者、キーワード等）を選んでから検索をはじめたスタイルだったが、新システムでは一般的な検索サイトと同様に検索語を入力する枠が1つのみで、迷わず手軽に検索を始めることができる。

また、検索結果の絞り込み機能が大幅に強化された。まず思いついたキーワードで検索を始めると、検索結果が素早く分析され、画面上に関連する項目が提示され、そこからクリックで選ぶだけで検索結果を絞り込むことが出来るようになった。これは「ファセット」と呼ばれる機能で新システムのセールスポイントの1つである。

3. 慶應義塾大学と目録データを共同管理

今回のシステム移行の1つの柱である、慶應義塾大学との目録データの共同管理がついに実現した。図書館の検索システムでは、データは大きく「書誌」（どのような資料か）と「所蔵」（どこが持っているか）に分けられるが、この書誌データの部分を早慶共同で維持管理することになった。

4. 早慶お互いのデータが検索可能に

早慶それぞれの検索システムでお互いの資料を検索することが出来るようになった。これまでは早慶それぞれの検索システム（WINE・KOSMOS）を検索する必要があったが、新システムでは早慶それぞれの検索インターフェースにお互いの資料をまとめて探す選択肢が追加されている。ぜひお試しください。

5. ルールの変更（貸出／延長／予約／反則）

この新システム稼働に合わせ、貸出などのルールの変更を実施した。主な変更は以下の3点である。

- ・貸出期間の延長方法の変更
- ・貸出中の本を期限までに返却しなかった場合（延滞）のペナルティの変更

- ・蔵書の貸出期間の標準化

6. その他の変更点

◆ URL の変更

旧 WINE <http://wine.wul.waseda.ac.jp>

新 WINE <https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/>

まだブックマークを切り替えていないという方は是非切り替えをお願いしたい。

◆ リンクリゾルバの変更

「リンクリゾルバ」はあまり意識されていないかと思われるが Google Scholar などの検索結果に「FindFulltext@WASEDA」といったアイコンや文字が表示され、クリックすると本学で利用できる資料かどうかを確認してくれる機能である。これも新システムへ導かれるよう変更された。

◆ サーバ機のクラウド化

これまでは年に 1 回、旧 WINE システムのサーバ機器がある施設の電源設備点検のためにサービスを停止する日があったが、今後はその影響を受けず、基本的に 24 時間 365 日利用可能となる。

◆ 頻繁な機能改善

今回採用した Alma・PrimoVE というシステムは世界の主要な大学図書館などで既に採用されている製品であり、多くのユーザーの意見に支えられ、日々進化し続けている。毎月のように新機能がリリースされ、不具合も修正されていき、今後もより使いやすいシステムへと発展してゆくと期待している。

7. ユーザー向けサービス以外の変化

◆ 受発注の一括処理

EOD や EDI と呼ばれる仕組みを使い、発注情報の一括登録や書店側とのデータによる発注・請求作業が行えるようになり、処理の迅速化・効率化が期待される。

◆ 経理システムへの一括登録

これは旧 WINE システムで実現できていなかった部分であり、新システムでは支払い情報をデータとして出力し、本学の経理システムへ一括登録することが可能となった。

終わりに

ここまで新図書館システムの主な特徴を上げてきたが、これらを実現するためには並々ならぬ苦労があった。短い期間で、かつ限られた経費・マンパワーでプロジェクトを完遂することは容易ではなかった。しかし、早慶の図書館スタッフで協力することにより、1 つずつ課題を克服し、予定の期日に遅れることなく新システムを公開できたことは、本当に誇らしいことである。関係の皆様には只々感謝するのみである。

1) 「早・慶図書館システム共同運用開始」(早稲田大学図書館ホームページ)

<https://www.waseda.jp/top/news/66247>

<お知らせ>

2020 年 2 月 25 日 (火) に早稲田大学にて、本システム共同運用に関する早慶合同シンポジウムの開催を予定しています。詳細は図書館 HP 等でお知らせいたします。ご興味のある方は是非ご参加ください。